企画展

備前

炎が生んだ異風なる美

三角水指

2008年6月1日(日) — 7月27日(日)

開館時間＝9時～17時(入館受付は16時30分まで)
月曜日休館(月曜祝日の場合は翌日)
入館料＝一般300円　高校生200円　小・中学生無料
友の会会員無料
団体(20名様以上)、シルバーカード・
障害者手帳提示の方等　2割引
ギャラリートーク＝毎週土曜日　14時から
(7月5日[土]は15時30分から)

特別講演会

日　時：7月5日(土)13時30分～15時
講　師：上西節雄氏(前倉敷市立美術館館長)
演　題：「備前焼について」(仮題)
会　場：岡山県立図書館2階サークル活動室1・2
参加費：一般1,200円　友の会会員1,000円
定　員：90名(要予約)

林原美術館

岡山市丸の内2-7-15 TEL(086)223-1733
http://www.hayashibara-museumofart.jp

火襷水屋甕（部分）

企画展

備前

炎が生んだ 異風なる美

絵備前花文皿（江戸時代末期～明治時代）

絵備前獅子図皿
（江戸時代末期～明治時代）

林原美術館所蔵の中から初展示を含めた備前焼をご紹介する展覧会です。備前焼は須恵器の技法を母体とし、十二世紀に伊部の地で生まれました。特徴の一つとして、他のやきもののように釉薬をかけずに、ただ焼き締めて作られる点が挙げられます。

室町時代には、備前焼の加飾を拒否した力強くて素朴な姿に、村田珠光（一四二二～一五二〇）をはじめとする茶人から「冷え枯れた美」を見出されます。それは当時の唐物尊重の端正な美を謳った茶の世界において、日常雑器の中に美しさを発見するという、新しい美の基準を打ち立てた画期的な出来事でありました。

江戸時代になると、備前焼は岡山藩の統制の下に茶の湯道具を作るだけではなく、様々な試みを行ないました。伊部の窯元から「御細工人」と呼ばれる名工を藩が選任して、精巧な「細工物」を作らせるなどしました。その始まりは寛永十三年（一六三六）にさかのぼります。また閑谷学校の建設にともない開かれた「閑谷焼」では、焼締めの朴訥な備前焼とは全く異なる白磁に似せた「白備前」や、色を施した「彩色備前」など、当時台頭してきた伊万里焼や唐津焼などに拮抗すべく、新しい備前焼の技術革新が行われました。

その他幕末から明治にかけて作られた「絵備前」の小皿は素朴な作風で、当館で所蔵する「絵備前」を今回初めて展示します。

これまで茶陶の中で多く語られてきた備前焼ですが、本展覧会では茶の湯道具としての備前焼のみならず、様々な姿の備前焼をご紹介し、あらためて備前焼の魅力を発見していただければ幸いです。

耳付柑子口花入
伊部手（江戸時代）

足付盤（桃山時代）

矢筈口耳付水指（桃山時代）

白備前獅子牡丹香炉（江戸時代）

林原美術館
HAYASHIBARA MUSEUM OF ART

〒700-0823　岡山市丸の内2-7-15　TEL (086)223-1733　FAX (086)226-3089
http://www.hayashibara-museumofart.jp
＊車椅子対応の設備あります。

交通／JR岡山駅から徒歩25分／路面電車［東山行］県庁通下車徒歩7分
岡電バス［岡電高屋行］県庁前下車徒歩3分
宇野バス［瀬戸駅前行・四御神行］県庁前下車徒歩3分

次回予告　企画展　「みずくきの美－禁中の書・武家の書－」
平成20年8月3日(日)～9月7日(日)

書は筆跡や墨の色彩などの見所に加え、書いた作者の個性が色濃く反映されます。天皇の宸翰、公家の書、そして武家の書など主に近世の書を中心に展示し、それぞれの持つ美しさをご覧いただきます。